

# グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No.67 号  
2025. 6

発行:NPO法人  
みどりの市民  
380-0948 長野市差出  
南2-14-23 プンゲイ  
印刷ビル3階  
発行人: 高木直樹

## 2025 年度総会開催される ～今年度はじまる～

2025 年度総会が、5月25日長野市ふれあい福祉センターにおいて、会員 37 名のうち 33 人(内委任状 20 名)の出席により無事終了しました。本年度は役員の改選はなく、2024 年度事業報告、計算報告・監査報告、2025 年度事業計画、事業予算の 4 つが審議され満場一致で承認されました。

### 《2024年度事業報告》

2024 年度は、長野県環境保全協会主催の信州エコ大賞に応募した結果、大賞を受賞するという嬉しい記念すべき年となりました。これまでの21年間にわたる持続可能な社会を目指して取り組んできた地道な又先進的な活動実績が評価されました。10月10日に授賞式、11月22日には祝う会をお世話になった方々をお招きして開催しました。しかし、一方では、高齢化などによるスタッフ不足により、「生ごみ減量・堆肥化」関連以外の事業は、縮小あるいは休止せざるを得なくなり、NPO運営にとり、厳しい現実を突きつけられています。今後、どのように舵を取り、みどりの市民の掲げたミッションを実現していくのか、理事をはじめ会員一人ひとりが問われています。

主な事業の活動概要は以下の通りです。

### I 省エネ、資源リサイクル等地球温暖化防止、循環型社会づくり

#### 1. 地域循環型社会の推進のための「生ごみ減量及び堆肥化の推進」

##### ◇長野市からの委託事業

##### ・生ごみ減量アドバイザー研修会の企画と運営

研修会は年3回実施。1回目5月24日(14人)2回目9月26日(17人)3回目1月27日(43人)、3回目の研修会は農政ジャーナリストの吉田太郎氏を講師に迎え公開講座

##### ・生ごみ減量・堆肥化講座への派遣業務

「地域講座」への派遣回数は22回、「長野市主催の生ごみ自家処理講座」への派遣は10回、派遣アドバイザーは合計延べ56人、受講生は270人

##### ◇独自事業

・どんぐり・るるネット(生ごみ一次生成物・竹基材(淡竹)・野菜の資源循環事業) 竹チップの配達と一次生成物の回収、会員は生ごみの堆肥化会員数は64名、配達・回収回数年5回

・はっこうサロン“IKI IKI”の企画運営 6回開催 参加者29人

はっこうを通して「生ごみ減量・堆肥化」を楽しく実施するために

#### 2. 使い捨てプラスチックごみの削減に向けて(海ごみ対策/脱プラの推進)

・ドキュメンタリー映画「マイクロプラスチックストーリー」上映支援活動

(早川美容商事の寄付金を元として)上映会:4件

・お店のプラスチック調査(主催「環境市民」)への参加(9月～11月)

ジャガイモ、ニンジン、きゅうり、ハウレンソウ、バナナの店舗のはだか売り状況を調査 実施店舗:20店舗、参加者:9人(結果は前回の号で報告済み)

#### 3. エシカル・グリーンコンシューマー普及啓発

・エシカル消費の普及啓発

「信州環境フェア 2024」にエシカルふえす長野実行委員会として参加



研修会吉田正氏講演 2025 年 1 月 27 日



はっこうサロン IKI IKI  
“2024 年 12 月 3 日”



事前研修会  
2024 年 12 月 16 日

・企業のエシカル通信簿の調査活動への参画

主催:SSRC(消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク)

・市民目線の中小企業者サステナビリティ自主調査プロジェクトへの参画 (主催:認定NPO法人環境市民、今年は3年目最終年)

## II 自然環境保護・保全に関する事業

### 1. 飯縄山・戸隠山地域の携帯トイレの普及啓発活動

・携帯トイレの普及活動

携帯トイレ 200 個 飯綱高原を美しくする会へ

## III 環境教育、環境学習の実施、普及、啓蒙に関する事業

### 1. 「信州環境カレッジ」に登録をして、エコサロン等を実施

・「学校講座」への登録

映画「マイクロプラスチックストーリー」を見て、考え、行動しよう

2月27日参加小学校:中野市立中野小学校 2月27日(6年2組36名、3組37名)

・「地域講座」への登録

エコサロン:くらし、環境、実践をキーワードに楽しく気軽にサロン風セミナー

10月7日 ヘチマでSDGsにチャレンジ (タワシ、ヘチマ水を作る)

### 2. エコアクティブ塾 (夏休み子ども向け講座)

・生ごみ堆肥化講座 7月31日 ふれあい福祉センターにて 参加者1人

みらいハッケンに登録講座、教育委員会の後援

### 3. 環境学習・環境体験の場 提供

・サマーチャレンジボランティア受け入れ 高校生1人 受入

みどりの市民事務局手伝い1日、生ごみ堆肥化お手伝い 2日



映画「マイクロプラスチックストーリー」上映会  
中野小学校 2025年2月27日



ヘチマからタワシ  
2024年10月7日

## 《2025年度活動計画》

2025年度事業は2024年度を継承しながら、①省エネ、資源リサイクル等地球温暖化防止、循環型社会づくりに関する事業、②自然環境保護・保全に関する事業、③環境教育、環境学習の実施、普及、啓蒙に関する事業を中心に進めていきます。

具体的な取組としては「生ごみ減量・堆肥化」、環境教育の推進などがあります。社会の状況は急速に変化していますので、本来のミッションを大切にしながら時代に対応していく必要があります。

みどりの市民が持続的に存続、活動できるように経費や事業の見直しを行いながら、会員のみなさんのやりたいこと、やれることを提案していただき、自由に活動できるようにすることを基本としていきます。

## 寄稿

### 森林と動植物から始まった人との多様性

竹重 聡 (みどりの市民会員)

大農営時代(産業革命)を経て18世紀ニュートン以来からひとは地中に埋まっていた石炭や石油の化石燃料を大量に消費し始め、CO<sub>2</sub>が地上に現れ、20世紀になって今までのバランスが崩れ始めた。本来の分解者と生産者と消費者の関係が崩れ始めたのである。20世紀後半からその間世代を繰り返し生き延びてきた多くの動物・昆虫・水生昆虫・木本・草本・シダ類・コケ類が、絶滅危惧種を含め今までの生物多様性を維

持できなくなり、地球上からあっと言う間に姿を消している。21世紀は益々人と人との摩擦から悪い関係がエスカレートした。経済の高度化が、当事者間の争いから生じた摩擦を乗り換えられない。和解できない、そのはざまに立っているのが全ての多様性だ。実に深く、ひとくりにしてしまうと環境問題である。これがいまの世界の現状である。



人はこの地球上の生物の命と遺伝子資源を、未来の子供たちが安心できるように守っていく責任と使命がある。

さて環境は、生物が生存するために必要な自然の状態や、人間が生活するための社会的な条件を指す。三つの自然・社会・人間で構成され、社会的な要素によって人の生活に大きな影響を与える。人は命の脈わいとつながりを継承させなければならない。三構成の初めに自然があるように自然は社会より下にはない。自然が先であり人は社会の一構成員である。しかし過去も現在も、人が結果的に自然界の交通整理をして、現実には環境のナンバーワンである。

子供等に密接にリンクする地球上に生活する動植物との生物多様性は、それぞれが生きていく個々の生態学と構成要素としくみとその歴史を学ぶことから始まるということを里山の森林を通して体験してもらうことが大切である。そのことによって人を中心に今後の生態系への新たな取り組みも見出せる。

人を含む生態系の保全が不可欠であると同時に、この生態系の構成員である高次消費者以下の生物多様性の保全も不可欠である。この地球上にどれくらいの種がいて、それが毎日毎年どれくらいの速度で変化しているか、新種の発見となったか、絶滅したか。生態系ピラミッドにおいて、ことひとつの狭い地域となるとさっぱりわかっていない。大まかな原因は人工化が世の中を覆いつつある。人との接点が定期的に定点でくまなく把握されていない、それは偶然人と出会っていない等がある。つまり細かく表すと次のようになる。起因となるものは自然志向での動植物にエキスパートな人材不足、人のローカル否定グローバル推進・精神的と経済的な絶対値・極都市化志向・自立循環社会とメガシティ社会・箱物だけの居住空間・スローな生活とスピーディな生活・ここまで広がった核家族・子供にとってのストレス社会・隣人との協調の欠如・18世紀以降の頻繁な戦争がある。このため次世代の子供等に引継ぎが出来ない。

要因は幾つか考えられる。水や土壌などの質を悪化させたり、他のエリアから敵となるような生物を持ち込



上高地のケシヨウヤナギ…上のかたまりがフロッコリーのように見えるのが特徴

んだり、生物を乱獲したり、動植物たちの出会いの場や繁殖の場を縮小したり、緩衝地帯を無くしてしまったりしたことなどである。又出会いの場には危険が伴うが、このときは相手側の緩衝地帯を設ければ相互が助かる。しかし人だけの利便性を求め土地を改変させたため、動植物の住処だけでなく緩衝地帯も無くしてしまったことなどが、動植物たちを絶滅に追いやる原因となってきた。

わたしは近い将来森林を維持することに、生態系の底辺である生産者のシダ植物コケ類が地球環境を支えるために大きな力を発揮し続ける、と信じる一人である。

シダ植物は人の生活とかかわりが深い。多くのシダ植物は針葉樹林帯または広葉樹混合林帯に自生する。それは植林によることがほとんどで、木材利用で存在が消える。だが植林の繰り返しによる森林維持でシダ植物は復活し維持される。問題は自然のまま維持されてきた奥山の森林の絶滅がそこにあったシダの復活と必ずしもならないことである。納得して結果を出すまでに双方時間がかかるが、決めたことは早く行動して結果を出す。つまり和解して修正してまた結果を出す。この繰り返しが出来ていない。たいへん根がとても深く南アルプスで生じた社会問題である。

自然保護とは何か？この良くない一つの例が 2020 年頃からよく目撃されるようになった上高地のニホンシカである。生物多様性の崩壊であり、先に記したように 21 世紀は益々悪い関係がエスカレートしていく。

上高地で、私は上高地パークボランティアを始めて 21 年目になりました。

このパークボランティアの会は環境省承認の団体で、全国の国立公園にあります。上高地は関東、中部、東海、北陸、関西から公募した人たちで、2 年に 1 回の公募審査を通過した方々で構成され、R7 年現在 69 名です。私は選挙で今この会長を務めています。毎年上高地コケシダ観察会、上高地ヤナギ観察会、そして戸隠コケシダ観察会をしています。

「見て分かる上高地のシダ植物」竹重聡 著作の一部から (2025.6.15)

## 生ごみ減量アドバイザーカエル便り NO.4

### 《生ごみ減量アドバイザー研修会開催・その後》 ～農業研修センターの入口にお花が咲いた～

2025年度の生ごみ減量アドバイザーの第1回研修会が、5月22日長野市農業研修センターで行われた。今回のテーマは「生ごみ堆肥の有効活用～美しいお花(植物)と土づくり～」、講師はガーデンデザイナーであり樹木匠でもある塚田真由先生。先生はまず、これまで携わってきた花壇づくりや地域のコミュニティーガーデンで実践されてきたこと。又植物が良く育つ土は、炊き立てのご飯のようで、養分をバランスよく含んでいるとお話をされた。アドバイザーのこれからの講座に大変参考になりました。



講義のあとは、ナチュラルスティックプランティング(自然風植栽)の実習で、農業研修センター入口の花壇の土壌改良とお花の植え付けをしました。草が生え荒れていた花壇は、事前に草取りがされていた。そこへの大量の生ごみ堆肥と木質堆肥を約10センチ位まで敷き詰めた。敷き詰められた土へ、同じ長野市の施設であるということから篠ノ井のながの緑育協会から寄付されたお花の苗をアドバイザーが植えこんだ。植えこんだ後はさらに木質堆肥によるマルチで草予防。マリーゴールドなどの残りのお花は、アドバイザーへのお土産となり、講座は終了した。塚田先生は講座終了後、一つひとつのお花に名前を付けて下さった。

先日、農業研修センターを訪ねてみると、入り口の花壇は草も生えずにお花たちはすくすくと育っていました。これからの真夏の太陽にも負けずにいろいろな彩りを見せてくれるでしょう。訪れるのが楽しみです。(H.W)



### お知らせコーナー

#### 信州環境フェア2025

親子で体験！

地球温暖化を食いとめよう！

とき:7月5日(土)10時～16時

ところ:長野市生涯学習センター

キッズ対象の講演会やワークが盛りだくさん

みどりの市民も出展

「エシカルゲームで学ぼう！」お出かけ下さい。

#### 《みどりの市民 会員募集中》

入会をご希望の方は、下記みどりの市民の事務局へ、メール、TEL、faxで、お名前、連絡先をご連絡ください。

#### はっこうサロン“IKI IKI”

～生ごみ堆肥化相談室～

とき:7月9日(水)10時～11時30分

ところ:柳原交流センター 参加費:無料

ちょっとお立ち寄り下さい！

生ごみ堆肥化困りごと相談&甘酒・ザワークラウト

#### ～事務局長交代について～

2025年の総会で事務局長の渡辺ヒデ子は退任し、代わりに小池啓道副代表理事が新事務局長に就任しました。尚、渡辺は副代表理事として生ごみ削減事業の担当をいたします。変わらぬご支援をお願いいたします。

#### みどりの市民の会員数(2025年5月25日現在)

正会員 37人 賛助会員 12人 団体賛助会員 1団体

〒380-0948 長野市差出南 2-14-23 プンゲイ印刷 3階

TEL&FAX 026-217-0514

E-mail: midoric2023@gmail.com

URL <http://midorinoc.sub.jp/>



【編集後記】グリーンハーバーの創刊号は2004年の10月です。以来カタツムリのようにゆっくりでしたが、多くの人のご協力で67号を迎えました。「グリーンハーバー」というタイトルは、多くの人が環境について情報を得て、活動し、得たことを積み込み、時には安らぎ、また新たな旅立ちをして欲しいという意味を込めました。これまで若い人をはじめ多くの皆さんがこの港に立ち寄り、そして旅立っていきまし。たくさんの人たちに出会えたことを感謝申し上げます。私の編集はここで一区切り、長い間ありがとうございました。(夢見るコトコト)